

より

※市民参加推進フォーラム：京都市の市民参加を推進する審議会

- ・市民と行政との協働の場面では、意見をまとめていく過程で面倒なことも起こる。でも、お互いに信頼したいという気持ちで根気よく関わると、本当に地域が必要としていたものが出来る実感がある。
- ・面白さを感じて参加してもらうための責任は、場を作る側にある。公募委員などで参加する人には、気負わず参加してほしい。
- ・まちを良くしようと意識していなくても、まちを良くする振る舞いがある。京都には地藏盆や学区の運動会があるし、普段のなにげない挨拶なども、まちを良くするものだ。(谷口氏)

グループ交流・全体共有

①～③の好きなテーマの場所へ各自移動し、意見を交わす

テーマ①
どうやって始める？
市政とのつながり

テーマ②
市政とのつながりの
楽しさ、やりがい

テーマ③
市政とのつながりの
次のステップ

グループ交流
25分

席替え

グループ交流
25分

全体共有
15分



「市民参加」について、行政がいろんな取組をしていると、今日初めて知って驚いた。しかし、聞いていると、親や祖父母が消防団や体育振興会に関わっているのも、市民参加なんだと分かった。自分にも何かできるような気がする。

市民参加の制度ややり方がたくさん準備されているということが、一般に認識・評価されていない。行政や町内会などの既存の組織では、参加のデザインがもっと工夫されるとよい。

市政参加しようとしても、参加につながりにくい世代がある。私は大学生だが、大学生より下の世代にはあまり開かれていない。また、大学生で参加の活動をしていたとしても、就職すると時間が取れないことがほとんどで、自営業だったり、退職後でないと参加することが難しいという課題がある。

「市民参加」という言葉が硬い。区民運動会も町内会も餅つきも市民参加なのかもしれない。これまで意識してこず、結びついていない。でも、本当はみんなが何かしらやっているのかもという気がしてきた。

行政は、「いいね！」がもらえそうな共感できる企画を打出し、SNS等も活用してPRを頑張してほしい。

議論の性質によっては、市民参加がそぐわないケースもあるが、まちづくりや都市の計画などのベースになる議論こそ、まずは、学識経験者ではなく市民の声が必要なのではないか？ まちに暮らす一般市民の指摘が重要なこともある。かつ、学識経験者が居ることで、安心して会議に臨める。

問題意識を持っても、どこに伝えればいいのか分からない。また、自分たちの意見は通らないのではないかと、何をしても意味がないのではないかと、不信感や諦めがある。解決に向けて、楽しく参加して意見を言う機会もあるということを知らないのは、もったいない。

普段自分の関わっている活動の中で、テーマが広がったり、別の分野や地域に広がったりして、世代を超えて繋いでいけるようなものが出来ることがあり、そのような経験が嬉しい。

地域での「まちづくり活動」は具体的に关わるイメージを持ちやすい。それが、「市政参加」となると、途端にハードルが上がる気がする。

行政には、会議を開催する前に、市民感覚と、行政や学識経験者の間にあるギャップをリサーチしてほしい。

「市民公募委員サロン」アンケート（回答数25）

ゲストトークの感想

- ・具体的で問題点も分かりやすく、勉強になった。
- ・市民参加は、面白く、時には面倒で、でも根気よく取り組むといいものができるということが分かった。
- ・なぜ参加するのか、参加してどうだったかという話が聞けた。
- ・つながりの大切さや、市政とは何なのかなど、知らないことを知ることができた。みんなで活動すると市が動くことを知った。

このイベントへの参加の動機・きっかけ

- ・大学の講義で市政参加について関心を持った。
- ・市長に伝えたいことがあったが、その方法があるのか知りたかった。
- ・別のイベントへの参加から、市の課題解決への参加に興味を持った。
- ・いろんな人の、活動に対する積極的な声を聴きたかった。
- ・他の審議会等の方がどのように考えているかを知りたかった。

交流会の感想

- ・様々な立場の方の意見を聞き、市政への壁がなくなった。
- ・市政参加のミスマッチの話や成功事例を聞くことができた。
- ・人数が多すぎるグループもあり、話しにくい時があった。
- ・京都市の事を考えている人が多くいることを知った。
- ・自分の意見を述べたり、他者の意見を聞くいい機会だった。
- ・市民参加について知り、他の世代の方とも交流できた。

このイベントを通じた心境の変化や抱負

- ・市政参加への関心を持つことが大切だと感じた。
- ・公募委員になってみたい。
- ・これから開催される会議では、ひとこと発言しようと思った。
- ・参加しやすい場づくりの重要性に改めて気づいた。
- ・今後も一市民として発言していきたい。
- ・できることから市民参加をしていきたい。
- ・これからさらに京都のためにがんばりたい。